



主体性を育むために

前回の学校便り46号で取り上げた内容について、課題解決のためにできることを考えてみたいと思います。なぜ主体的になれないのか？なぜ指示待ちと言われるようになるのか？

突然ですが、生まれて間もないころの子どもは、ほとんどの子が主体的です。もちろんそれは周りの大人（保護者）が関わっている場合のことになります。何か気になるものがあると注視したり、手を伸ばしたり積極的に周りに関わろうとします。ある時期には手に取るものを見ることもあり、目が離せない時期もあります。色々なものに関心を示し、行動を起こそうとする姿が幼児期にはあります。言葉の習得についても、保護者とのやり取りの中で、試行錯誤をしながら自然と身につけていきます。保護者が教えて言葉を覚えるのではなく、自ら周囲へ働きかけ、発語をし、試行錯誤をしながら身につけていきます。

しかし、いつの日からか、学習から逃避する子や、自ら行動することを躊躇する子が増えています。それはどうしてなのでしょうか？その要因の中に、課題を解決するヒントがあると思います。

これまでの学校では

授業 知識注入型 受動的な学習

教師はできだけわかりやすく説明をし、それを子どもたちは静かに聞いている授業が多い。発言も限られた子に偏る傾向があり、その発表も教師に対して行っていて学級全体への発表ではない場合が多い。



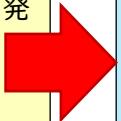
係活動と当番活動

係活動と当番活動の区別が曖昧で、教師のお手伝い的な要素が強い状況にある。

委員会活動

本校では6年生が分担して行っていて、楽しみながら活動を主体的に取り組む姿は少ない状況である。

これまでの学校教育では、子どもは白紙と捉えられ、教師や保護者などが教えることに力点が置かれていた。自ずと子どもたちは受動的になる。



これからの中学校では

授業 主体的・対話的で深い学び 探求型の授業

全ての子が参加・参画でき分かれる、できるを味わう授業づくり。全員が当事者であり傍観者はいない。

個人やグループ、PC活用、体験学習など多様な学習



係活動と当番活動

係活動と当番活動（日直や清掃、給食など）の違いを意識する。係活動は子どもたちの力で学級生活を楽しく豊かにするためのものである。例えばレク係や学級新聞係など、生活を共に楽しく豊にするために創意工夫をしながら主体的に取り組むことを大切にする。
※学級役員を決めず、輪番制で多くの子がその役割を経験するようにする。

委員会活動

各種委員会でやるべきことと、やりたいことを意識した取り組みを行い、主体性と責任感を育む。

家庭や地域社会では

各家庭や地域の状況も大きく変化している。農業や漁業、商店など自営業などの割合が減り、家業を手伝う子どもの割合も減っている。また、一般的に兄弟、姉妹も少なくなり下の子を世話する経験がなくなり、家事の経験も減る傾向にある。地域社会でも子ども会などがなくなり、スポーツや習い事などに通う子が増えている。また、地域行事で発達の段階に応じて担う場面も減少している。

子どもたちは（大人も含め）、圧倒的にサービスを受ける側になり、多くの場合、自ら他者のために、地域のためにどういう活動は減少しているように思える。しかし、一部の地域や様々な場面で、子どもたちや大人の主体的な取組はある。私たち大里南小学校の地域でも多様な取組がなされている。

※子ども大人も、ワクワク探究できる大里南小学校、そして家庭、地域を目指していきたいですね！